



アートスパークホールディングス株式会社

2017年12月期 第4四半期

決算説明補足資料

目次

	1. 業績ハイライト	
	1-1. 連結損益計算書	2
	1-2. 連結貸借対照表	3
	1-3. 事業セグメント別損益の状況	4
	2. 事業セグメント別の概況	
	2-1. クリエイターサポート事業	5
	2-2. UI/UX事業	6
	3. 2018年12月期予想	7
	4. 2018年12月期の主要施策	8

1-1.連結損益計算書

単位：千円

	2016年12月期	2017年12月期	前年比
売上高	3,835,853	3,636,018	▲5.2%
営業利益	500,504	423,803	▲15.3%
経常利益	477,045	410,425	▲14.0%
純利益	337,150	374,791	11.2%

■業績の概況

- ・売上高：前年同期199,835千円減少

なお、前連結会計年度の売上高3,835,853千円につきましては、前連結会計年度に株式を売却した孫会社株式会社エイチアイ関西の売上高275,903千円が含まれております

このため、既存グループ会社の売上高比較では、76,067千円（前年同期比2.1%増）の増加となります

- ・営業利益：前年同期76,700千円減少
- ・経常利益：営業外費用で支払利息等の合計14,024千円により410,425千円の経常利益
- ・純利益：ソフトウェアの減損損失、税金費用等により374,791千円の純利益

■トピックス（2017年1月～12月）

- ・ソフトウェアIPを核とした経営に重点、開発リソースの戦略的配置等、経営効率向上に注力

1-2.連結貸借対照表

単位：千円

	前連結会計年度末 (2016年12月末日)		当連結会計年度末 (2017年12月末日)		
	金額	構成比	金額	構成比	前期末増減額
流動資産	2,542,140	68.7%	2,996,405	74.5%	454,264
固定資産	1,156,935	31.3%	1,027,710	25.5%	△129,224
繰延資産	608	0.0%	—	—	△608
資産合計	3,699,684	100.0%	4,024,115	100.0%	324,431
流動負債	756,137	20.4%	676,402	16.8%	△79,735
固定負債	145,328	3.9%	180,242	4.5%	34,913
負債合計	901,466	24.4%	856,644	21.3%	△44,821
純資産合計	2,798,218	75.6%	3,167,471	78.7%	369,252
負債・純資産合計	3,699,684	100.0%	4,024,115	100.0%	324,431

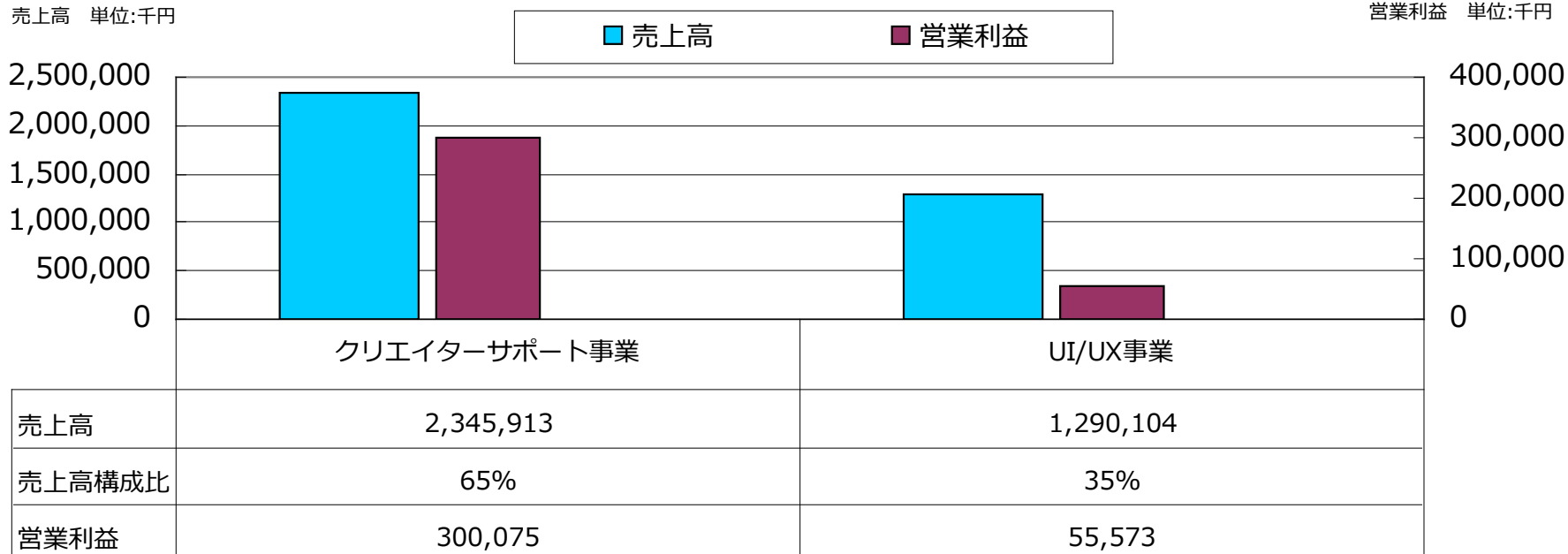
■主な増減の内容

- ・資産の部：現金及び預金の増加+338,777千円、売掛金の増加+61,010千円、仕掛品の増加+1,800千円、ソフトウェアの減少-164,944千円、ソフトウェア仮勘定の減少-3,304千円
- ・負債の部：長期借入金の増加+16,033千円、未払法人税等の増加+21,548千円、短期借入金の減少-116,690千円
- ・純資産の部：ストックオプション権利行使により資本金・資本剰余金の増加+14,483千円、当期純利益計上により利益剰余金の増加+354,463千円

1-3.事業セグメント別損益の状況

売上高 単位:千円

営業利益 単位:千円



※当連結会計年度より、従来の「コンテンツソリューション事業」を「クリエイターサポート事業」に含めております

■売上高

- ・クリエイターサポート事業は10.1%増加、UI／UX事業は24.4%減少

■営業損益

- ・クリエイターサポート事業は53.2%増加、UI／UX事業は80.2%減少

2-1.クリエイターサポート事業

単位：千円

	2016年12月期	2017年12月期	前年比
売 上 高	2,130,372	2,345,913	10.1%
営 業 損 益	195,914	300,075	53.2%

※当連結会計年度より、従来の「コンテンツソリューション事業」を「クリエイターサポート事業」に含めております
本資料につきましては、変更後の区分に組替えた数値で比較しております

■業績の概要

・売上高では、対前年同期で215,540千円の増加となり、営業利益では、対前年同期で104,160千円の増加となりました

■トピックス（2017年1月～12月）

- ・iPad用マンガ・イラスト制作アプリ「CLIP STUDIO PAINT EX for iPad」を全世界同時リリース
- ・創作応援サイト「CLIP STUDIO」の登録者数は103万人を突破（12月末時点）
- ・メディアドゥと共同で提供するブラウザビューアソリューションが、「pixiv コミックスストア」及び「comico PLUS」に採用

2-2.UI/UX事業

単位：千円

	2016年12月期	2017年12月期	前年比
売 上 高	1,705,480	1,290,104	△24.4%
営 業 損 益	280,666	55,573	△80.2%

■業績の概要

・売上高では、対前年同期415,376千円減少となり、営業損益では、対前年同期で225,093千円の減少となりました

なお、本セグメントの前連結会計年度の売上高1,705,480千円につきましては、前連結会計年度に株式を売却した孫会社株式会社エイチアイ関西の売上高275,903千円が含まれております

このため、既存会社の売上高比較では、139,472千円（前年同期比9.8%減）の減少となります

■トピックス（2017年1月～12月）

・UIオーサリングソフトウェア群「exbeans UI Conductor」が、セイコーエプソン株式会社において、2017年度発売の主要モデル及びビジネス向けプリンターに採用

・当社が開発した移動体向け車載情報伝達ソフトウェアが、2015年8月から大手OEMの車載機器向けサービスソフトウェアに採用されており、北米市場を中心に170万台を出荷

3.2018年12月期予想

(百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)	1株当たり 配当金 (円)
第2四半期 (累計)	1,671	13	3	△9	0.00	—
通期	3,307	63	42	7	1.03	5.00

市場環境が変化したこと等により、不透明な状況であり、ソフトウェアIPの競争力強化のための研究開発活動等をこれまで以上に強力に推進していく必要性が生じたことから、2015年7月31日に公表しておりました中期経営計画については、見直しを行うことといたしました
数値目標については当面の間は次期の業績見通しを公表するにとどめ、新たな計画は体制が整い次第改めて策定し、適切な時期に公表する予定です

2017年12月期	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)	1株当たり 配当金 (円)
第2四半期 (累計)	1,722	253	243	220	32.59	—
通期	3,636	423	410	374	55.25	4.00

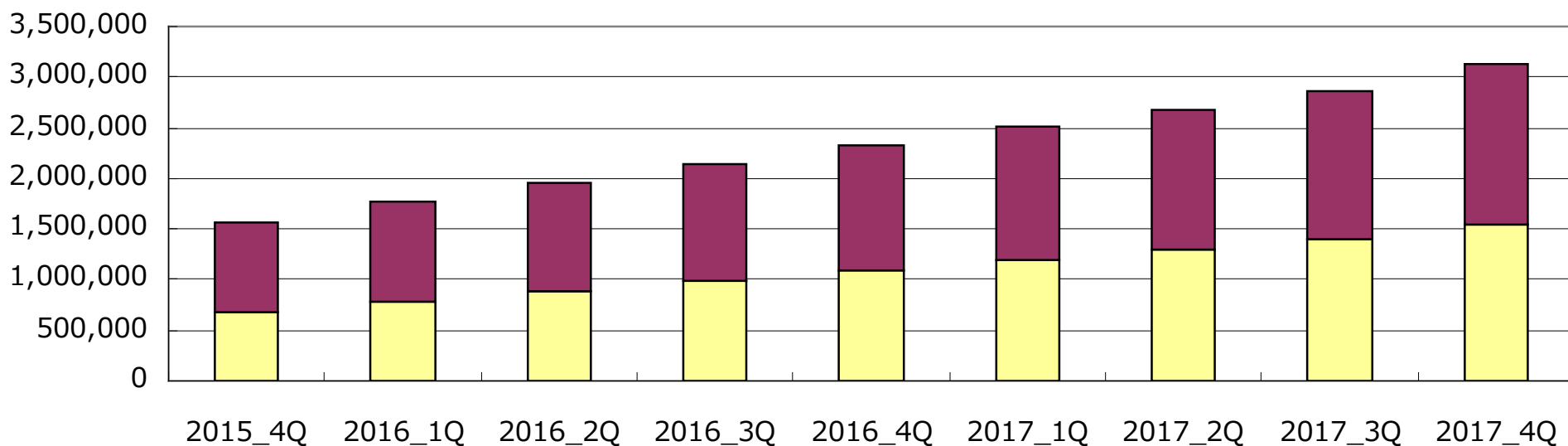
4.2018年12月期の主要施策

- 1.ソフトウェアIPを核とした経営に重点
- 2.引き続き、開発リソースの戦略的配置等、経営効率向上に注力
- 3.CLIP STUDIOの開発・サービス提供を強化し、グローバル展開を更に加速
- 4.CLIP STUDIOプラットフォームを活用したコンテンツ制作・流通・再生にまつわる提供サービスの開発
- 5.自動車を中心とした様々な組込機器向けにノウハウを集中、ビジネスを強力に推進
- 6.自社IP製品(UI Conductor、Affinity、VI Transfer等)の機能強化に向けた開発に注力

4-3.CLIP STUDIOグローバル展開を更に加速

「CLIP STUDIO PAINT」 言語別累計出荷状況

他言語 日本語

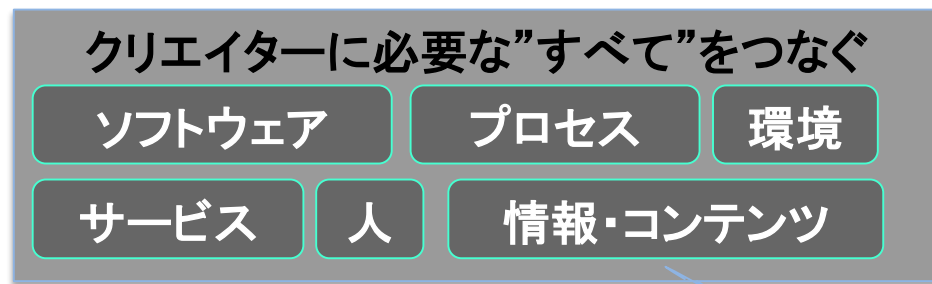


・「CLIP STUDIO PAINT」は2013年9月から英語版、中国語（繁体字版）、2014年7月からフランス語版、スペイン語版、2016年5月から韓国語版、2017年9月からドイツ語版をリリースし、多言語に対応

・BCN AWARD 2017受賞、3年連続でグラフィックソフト部門のNo.1メーカーに

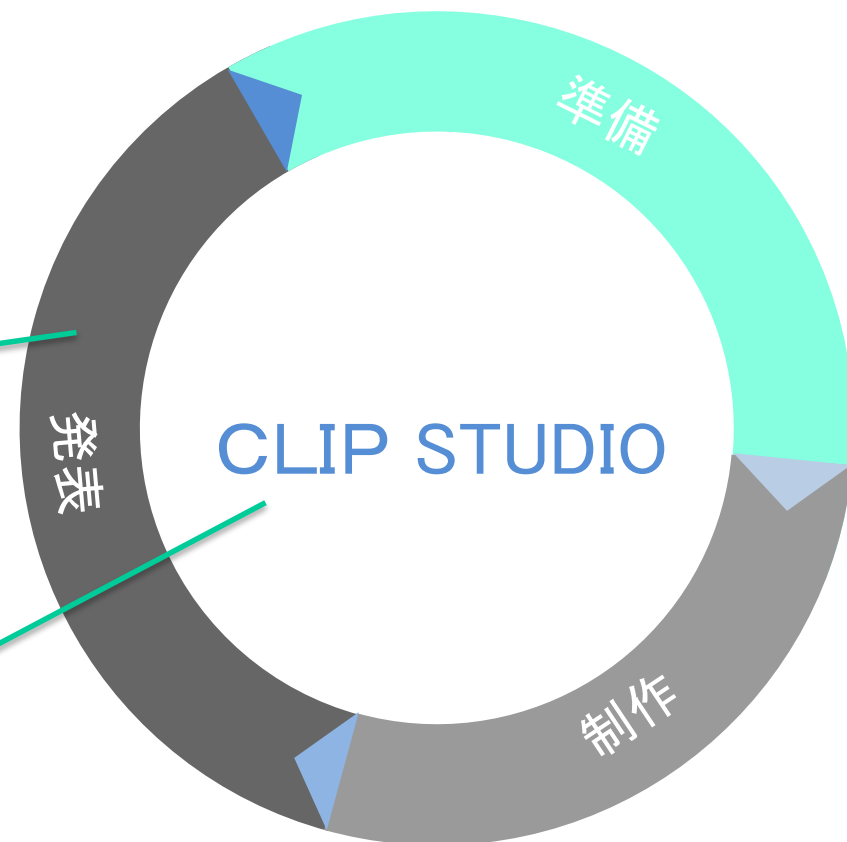
・「CLIP STUDIO PAINT」の累計出荷本数が全世界で300万本を突破

4-4.CLIP STUDIOを活用した提供サービスの開発

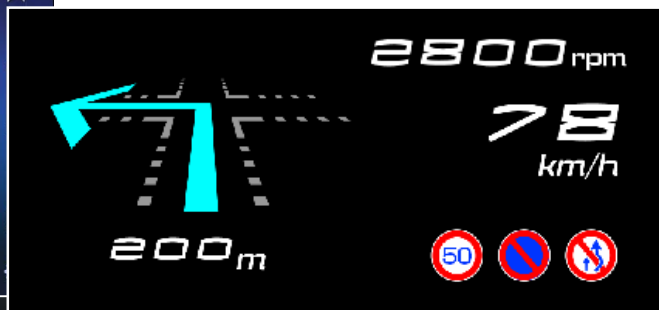
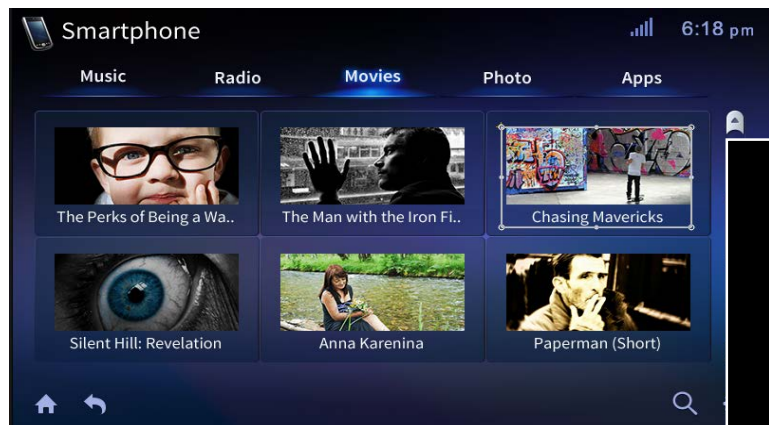


2D・3D・電子書籍で培った
ノウハウの融合により、
クリエイターに新たな価値を提供

全世界でユーザーを拡大していくために
必要な機能・サービス開発



4-5.exbeans UI Conductor (エックスビーンズ ユーアイ コンダクター)



組込HMIを開発するための統合的なソフトウェア群

ツール上で素材配置、インタラクション設定、アニメーション設定をオーサリングした、プロジェクトデータを実装環境上で量産開発することができます。

市場ニーズに応じ、随時バージョンアップを行っており、最新バージョンでは、3D機能の強化とマルチプレビューの対応等の新機能を追加し、UI / UX開発の効率化に貢献できるソフトウェアになっております。

4-5. exbeans Affinity (エクスビーンズ アフィニティ)



Webアプリケーションプラットフォーム

テレマティクスサービス（自動車等に携帯電話等を利用してサービスを提供すること）を始めとした様々なサービスを実現するための汎用ライブラリであり、また柔軟なサービスアプリ開発に耐えられるコアライブラリです。Webアプリケーションプラットフォームとして利用することで、容易に情報配信や更新、情報収集が可能です。

4-5. exbeans VI Transfer (エックスビーンズ ブイアイトランスファ)

※イメージ写真になります。（実際の装備はワイヤレス）

新たに提供した車両情報伝達ソフトウェア

二輪、四輪をはじめとする車両から得られる情報（CAN情報）を、アプリケーションへ伝達する汎用モジュールであり、アプリケーション側は、取得した情報を利用したサービスを提供することができます。前出の「exbeans Affinity」と組み合わせることで、Affinity上で構築したWebサービスを利用することができます。



本資料は、当社の事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は決算データ・会社データについては2017年12月31日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見/予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。